



「次なる茨木」への まちづくり

まちの中心部に誕生した市の新たなランドマークとなる文化・子育て複合施設「おにクル」。『育てる広場』をキーコンセプトに、さまざまな取組を重ねながら、市民の皆さんと一緒に活用方法の検討を進めてきました。

また、市北部地域「いばきた」でも魅力的な場づくりに取り組むなど、「次なる茨木」に向けたまちづくりが進んでいます。

文化・子育て複合施設「おにクル」

ホール、こども支援センター、図書館、市民活動センター、プラネタリウムなど様々な機能を備えた複合施設で、前面には芝生広場が広がり、施設内やテラスにも多くの植栽を配置するなど、豊かな緑が特徴です。世界的な建築家である伊東豊雄さんが設計を手掛けたおにクルの館内には、7階建てのフロアを貫く大きな吹き抜け「縦の道」があり、交差するエスカレーターでつながっています。異なるフロアの音や雰囲気を変え、フロアの回遊を生み出し、来館者の皆さんに新たな発見や出会いをもたらします。



ゴウダホール・きたしんホール

ゴウダホールは1,201席のキャパシティがありながら舞台と席が近く、臨場感・一体感が感じられるホールです。きたしんホールは利用用途が幅広い平土間のホールで、オープンギャラリーと一体的に使用することもできます。



屋内こども広場 まちなかの森 もつくる

天候にかかわらず外あそびが体験できる屋内こども広場です。元茨木川緑地の伐採樹木を活用して作られた空間で、木の香りやぬくもりに包まれ、こどもたちの豊かな感性を育みます。



こども支援センター

母子健康手帳の交付や乳幼児健診などの母子保健事業や予防接種事業、子育てに関する講座、ファミリーサポートセンター事業、一時保育事業など、「妊娠・出産・子育て」に関する切れ目ないサポートを実施します。



おにクルぶっくぱーく

5階と6階をメインフロアとし、2階から7階にも各フロアのテーマに沿った書籍などが配架されています。好きな場所で読書を楽しめ、開放的で気軽に過ごすことのできる、まるで「公園」のような空間です。



きたしんプラネタリウム

星空を眺めるだけでなく、地球を飛び出し、宇宙にも行けるデジタルプラネタリウムで、星空や宇宙をキーワードに科学を楽しめます。また、コンサート会場など、新しい活用方法を提供する場として、貸し出しも行います。



市民活動センター きゃぱす

「みんなのえんがわ」がコンセプトの市民活動の拠点。これから何かしたい人、現在活動中のひとちらでもコーディネーターに相談ができるほか、講座やイベントなども実施されます。



さまざまな催しがいっぱい！

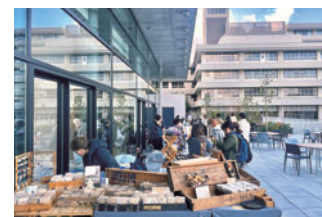
図書館と子育て支援のコラボなど複合施設ならではの取組や市民主体の活動がいっぱい。常に色々な発見や出会いがある、誰もが過ごしやすい、訪れたい「立体的な公園」のような場づくりが進められています。



屋上広場でテニス



おにクルオープニングイベント



ハンドメイドマルシェ



ホールホワイエでの盆ダンス

ひと中心のまちなかづくり

まちのあちこちで思い思いに過ごしたり、人々が出会い、活動が生まれたりするような、茨木らしい幸せや豊かさを感じられる「ひと中心のまちなか」の実現を目指して様々な取組を進めています。

元茨木川緑地リ・デザイン

老木や老朽化した施設を更新するだけでなく、滞在できる憩いの場に「リ・デザイン」する取組を進めており、イベントなどでも活用されます。
※詳細は9ページ参照



まちの魅力をつなぐ2つのメインストリート

にぎわいをまちなか全体へと拡げるため、東西に延びる2つのメインストリートを歩きやすく、歩きたくなるような空間づくりを進めています。人と人、活動と活動をつなぎ、交流やにぎわいを広げていきます。



「次なる茨木」への まちづくり



ダムパークいばきた

安威川ダム周辺の自然環境と調和した市の都市公園「ダムパークいばきた」は、民間のノウハウを取り入れ、市民の皆さんの声やアイデアが反映された公園です。長さ日本一の吊り橋をはじめ、園内でマルシェなどのイベントが行われ、湖面ではウォーターアクティビティなどのレジャーが楽しめる、ダム湖畔ならではの魅力的な公園の整備が順次進められています。



長さ日本一！歩行者専用つり橋

メインスポットともいえる「吊り橋エリア」が令和6年（2024年）12月頃完成予定です。日本最長420mの歩行者専用吊り橋は、民間事業者が建設・管理する施設で、橋の上からバンジージャンプなどのスリリングなアトラクションを楽しめます。



※画像はイメージです。

山とまちをつなぐ「ダムパークいばきたコミュニティ」

市民等を中心につくられた「ダムパークいばきたコミュニティ」では、自らが提供するコンテンツによって市民・府民や観光客のみなさんに“おもてなし”を行うことを目的としています。「ダムパークいばきた」や周辺の賑わい、地域活性化へとつなげていきます。



今後順次オープン予定のその他の施設 (アクティビティ)



波が少ないダム湖の湖面を活かした、サップやカヌーなどの水上アクティビティが楽しめるデッキエリア。

※画像はイメージです。

本市初となるサッカーやラグビーの一般公式戦ができる人工芝のコートがある多目的運動広場エリア。



※画像はイメージです。

10種類を超えるダムカレー

安威川ダムのPRの一環として、安威川ダムに見立てた「安威川ダムカレー」を茨木市観光協会と一緒に開発しました。平成27年（2015年）の第1号を皮切りに、令和6年6月現在、10種類以上の安威川ダムカレーが、市内飲食店等で商品化されています。注文すると、安威川ダムカレーカードがもらえるお店も！



安威川ダム

令和5年（2023年）9月に本格運用を開始した安威川ダムは、100年に一度の大雨（時間雨量80mm、日雨量247mm）から市街地を守ります。

- 型 式：中央コア型ロックフィルダム
- 堤 高：76.5m
- 堤頂長：337.5m
- 総貯水容量：1,800万 m^3
- 管理者：大阪府



全国でも珍しい都市近郊型のダム。ダムの上から大阪平野の街並みを眺めることができます。



逢いにいきたい麗しき風景

茨木市は中心部を縦断する緑地や花の名所が点在し、四季折々美しい自然風景を身近に楽しめます。山間部はのどかな田園と里山が広がり、都会では見ることができない風景に出会えます。

自然美の宝庫 いばきた 市街地から車で20～30分、茨木市北部の通称「いばきた」は、のどかな田園風景が広がる地域。サイクリングにもおすすめで、山々に囲まれた棚田や水辺などを気持ちよくめぐることができます。



下音羽川



清溪地区の棚田



見山地区のあじさい

元茨木川緑地(大阪みどりの百選)

全長約5kmの緑地に桜をはじめ40種類以上の樹木が植えられています。散策やジョギングなど市街地の憩いの場として、こどもから高齢者まで広く親しまれています。アート作品なども設置され、見どころが豊富です。現在は、植栽環境の健全化や市民が活用できる仕組みと空間づくりをめざす「リ・デザイン」を進めています。



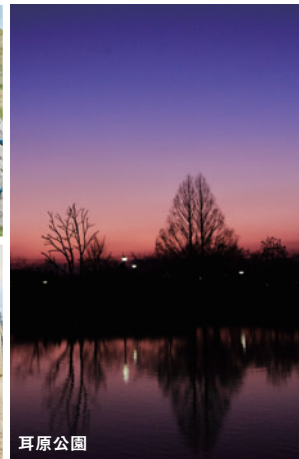
桜の名所で知られ、毎年春は多くの人でにぎわいます。



彩都はな公園



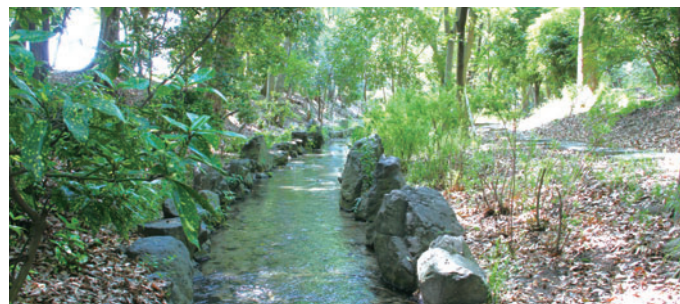
桑田公園



耳原公園

公園がいっぱい

市内各所に、約120か所の魅力的な公園があり、いつも大勢の人たちでにぎわっています。



西河原公園(大阪みどりの百選)

従来の樹木や竹やぶ、用水路をそのまま活かした自然豊かな公園です。野鳥や昆虫が飛び、園内のせせらぎには小魚が泳ぐなど、市街地にいながら自然を感じられる場所です。

若園公園バラ園

茨木市の花、バラが約180品種、約1,750株植えられています。見ごろは5月上旬～6月上旬と10月下旬～11月中旬。園内が豊かな彩りと香りに包まれます。





ぬくもりのあるまちで 安心子育て

妊娠から出産、子育てまでその時々に必要な支援が充実しています。また、地域全体で子育てを温かく見守る体制が整っています。

01 妊娠・出産したら

Ⅱ 妊婦健康診査費用を14回まで助成

大阪府内の委託医療機関や助産所での妊婦健康診査を14回、計12万円(多胎妊婦は19回、計14万5千円)まで助成しています。

Ⅱ 産婦健康診査を助成

産後間もない母親のこころとからだの健康保持や産後うつ病の予防のための産婦健康診査を2回、計1万円まで助成しています。

Ⅱ 母子健康手帳の交付

安心して出産・子育てができるよう、母子健康手帳の交付の際に、保健師・助産師が一人ひとりの妊婦と面談し、妊娠・出産や子育ての相談をお受けします。

Ⅱ こんにちは赤ちゃん事業

赤ちゃんがいるすべての家庭を保育士等が訪問。赤ちゃんの様子などをお聞きし、子育てに役立つ情報をお届けしています。



02 子育てのサポート

Ⅱ こども医療費の助成制度

18歳(高校3年生)までのこどものけがや病気による、通院・入院の医療費を所得制限なく助成しています。

Ⅱ つどいの広場

未就学児と保護者が気軽に集い安心して遊べる場です。スタッフによるふれあい遊びや、育児に関する情報提供を行っている身近な子育て支援拠点で、市内各地にあります。

Ⅱ 一時保育の体制が充実

こども支援センターや子育てすこやかセンター、つどいの広場などで、保護者のリフレッシュや病気・冠婚葬祭などにより、一時的に家庭での保育が困難になったこどもを預かる一時保育を実施しています。

03 こどもの居場所・相談場所

Ⅱ ユースプラザ

おおむね中学生～39歳のこども・若者が対象で、不登校・ひきこもりなど辛くなったときに安心して過ごせる居場所です。さまざまな社会体験ができ、保護者の相談も受け付けています。

Ⅱ 子ども・若者自立支援センター「くろす」

自分の人生を“自分らしく”生きるために、さまざまな悩みを抱えるこども・若者とその家族を関係機関と連携しながらサポートします。

Ⅱ 多世代交流センター

こどもや高齢者が自由に利用できる施設です。遊びやイベントを通して、交流しています。

ともに備え いのちを守る 安全・安心なまちづくり

安全で安心して暮らせるまちの実現に向けて、市民の命と暮らしを守るため、地域で支え合う自主防災、こどもの安全を見守る環境整備、消防救急体制の強化など、「いざ」に備える万全のまちづくりを進めています。

防災力の向上

自分たちでまちを守る

自主防災会、大学、企業などと連携した防災訓練や、子育て世代や若い世代を対象とした防災講演会などを実施しています。災害用備蓄品の整備、情報伝達体制の整備も進めています。



災害時に役立つ 公園づくり

一時避難地に指定している公園では、災害発生後の一時的な避難を支援するために、防災機能を有する設備を設置しています。また、一部の公園では耐震性貯水槽を整備し、飲料水などを確保しています。



かまどベンチ
災害時にベンチの脚部をかまどとして利用します。

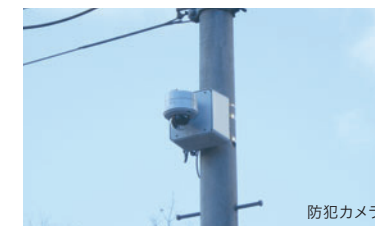


防犯環境の整備

青色防犯パトロール車の配置や通学路等への防犯カメラの設置を行い、地域の安全・安心につなげています。



青色防犯パトロール車



防犯カメラ

消防・救急体制の強化

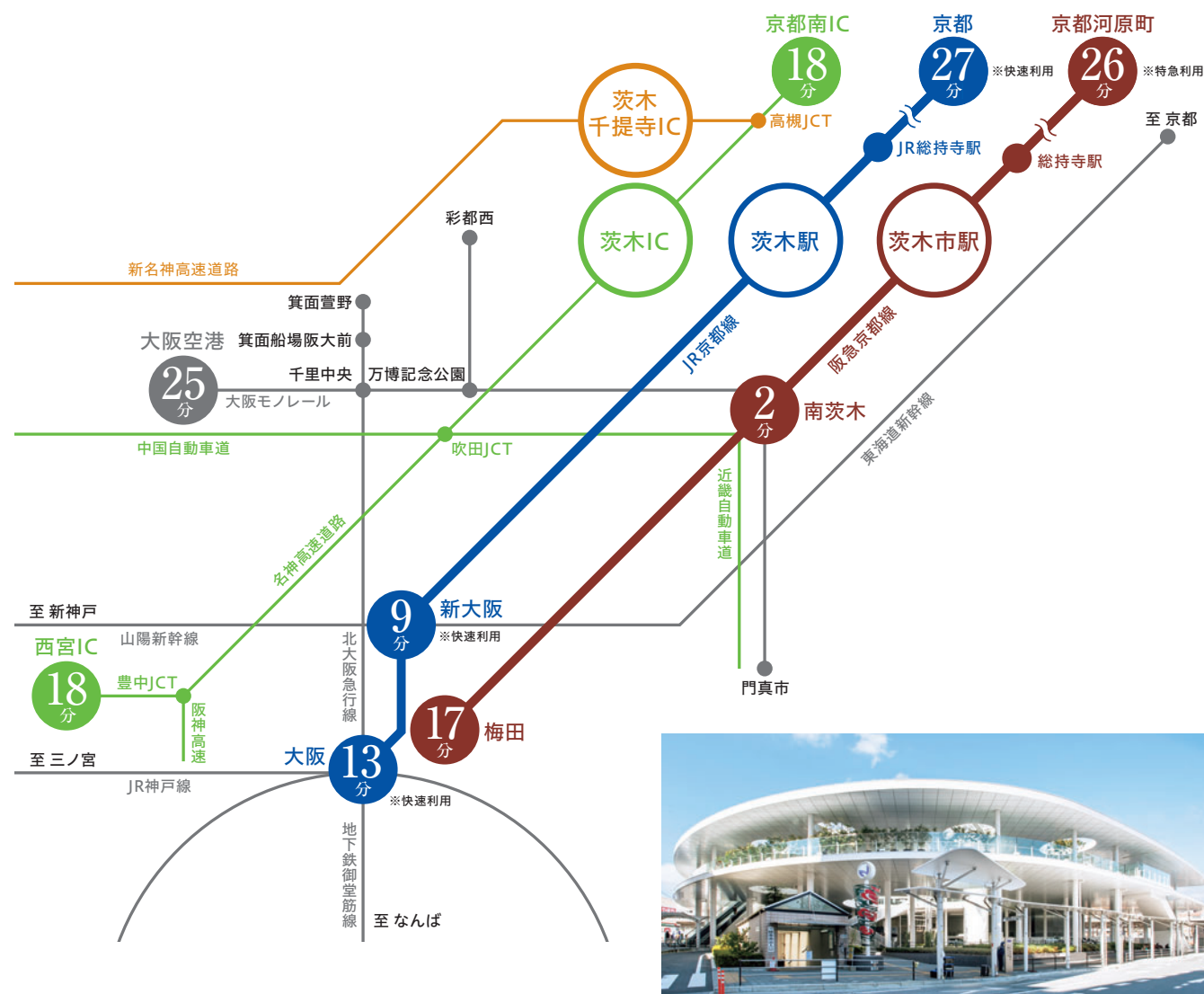
多様な災害に対応するために、さまざまな災害を想定した訓練を行い、消防職員および消防団員の災害対応能力の向上に努めているほか、最新の車両・資機材を導入しています。また、今後増加が見込まれる救急需要に対応するために、救急隊員の能力向上と医療機関との連携強化を行い、円滑な救急活動体制の構築に努めています。





抜群の交通アクセス 移動に便利

茨木市は、大阪と京都の間に位置し、市内をJR、阪急、モノレールの3路線が通ります。大阪、京都へ、新幹線、飛行機を活用して広域へ。抜群の交通環境は毎日の暮らしを支える大きな魅力です。高速道路へもアクセスしやすく、自動車移動も便利です。



JR茨木駅

平成30年(2018年)、駅構内のエスカレーター新設や新店舗の開業などのリフレッシュ工事により、茨木駅はますます便利で活気に満ちた玄関口に生まれ変わりました。東口駅前広場は、市民公募により決定した「いばらきスカイパレット」という愛称で親しまれています。

広がる交流 姉妹・友好都市

茨木市は、国内外のまちときずなを結び、交流を育んでいます。姉妹都市・ミネアポリス市及び友好都市・安慶市とは、代表団の相互訪問のほか、市民レベルの文化的な交流を展開しています。国内では小豆島町(旧内海町)と姉妹都市提携を、竹田市と歴史文化姉妹都市を提携しており、教育・文化・産業などの分野で互いの発展をめざし交流を深めています。



ミネアポリス市(アメリカ合衆国)

アメリカ合衆国ミネソタ州南東部に位置し、豊かな緑と多くの湖に包まれ「湖の街」と言われています。文化芸術施設も多く、全米でも安全で住みやすいまちの一つです。

提携年月日 昭和55年(1980年)10月22日



安慶市(中国)

長江中下流域の重要な港町であり、安徽省を代表する風光明媚な観光地です。中国文壇に影響を与えた桐城派の故郷で、中国京劇と黄梅劇の発祥地です。

締結年月日 昭和60年(1985年)10月5日



竹田市(大分県)

文禄3年(1594年)岡藩(現在の竹田市)藩主となった中川秀成が茨木城主中川清秀の次男であったり、本市の名誉市民川端康成が竹田市を小説の舞台にしたりと、竹田市と茨木市は歴史、文化の面において深い関わりを持っています。

提携年月日 平成25年(2013年)11月16日



小豆島町(香川県)

瀬戸内海の温暖な気候に恵まれた日本のオリーブ栽培発祥の地。オリーブ公園や日本三大渓谷美の一つである寒霞溪、海水浴場など観光名所が豊富にあります。

提携年月日 昭和63年(1988年)10月2日

※旧内海町との提携

